

新エネルギーの創出・活用に関する実証実験 「自然災害の備えとエコまちプロジェクト実現可能調査」

【市内バス停への再生可能エネルギー発電設備および蓄電池導入】

- 調査内容**
 - ・コミュニティバスの屋根付きバス停（1か所／市内19か所）、屋根なしバス停（1か所／市内29か所）それぞれに太陽光発電パネルを取り付け、蓄電池も備えつつ、夜間照明やスマートフォン等の非常用電源として利用可能か調査する。※屋根付きバス停には小型風車・照明器具・コンセント・防犯カメラを設置する。
 - ・上記2か所にデジタルサイネージを設置し、太陽光や風力による発電と蓄電池を用いて、災害時の情報やバスの運行に関する情報を発信するデジタルサイネージを運用できるかを調査する。
- コンセプト**
 - ・太陽光や風力を活用することで、二酸化炭素を排出せずに電気を作る
 - ・災害で停電が発生した場合でも、自然由来の電気で利用が可能
 - 「エコ」と「防災」の両立
- 実験期間** 令和4年12月1日（木）～令和5年2月28日（火）
→冬の間、見附は雪が降り日照時間も少なくなる。こうした状況下でも問題なく運用できるかを確認するため、冬の時期に調査を行う。
- 設置場所**
 - ・見附高校前バス停（コミュニティバス車庫行、別紙参照）
 - ・見附駅前バス停（コミュニティバス車庫行）

※この他にも、避難所等に用いる市内6か所の公共施設で、災害時の非常用電源として、太陽光発電設備や蓄電池などの自立的な電源を備えることができるかの調査も実施しています。

①見附市役所（文化ホール除く）②保健福祉センター③中央公民館④今町公民館⑤上北谷地区⑥ネーブルみつけ

●今後の予定

上記の調査をもとに、設備導入・維持・更新にかかる費用や更新プラン、降雪期などにおける維持管理方法などを検証し、令和5年度以降の事業化を検討・計画する。



※お車で取材に来られた方は、「見附駅送迎用駐車場」をご利用ください。

【補足：見附市新エネルギー・省エネルギービジョンについて】

市では令和元年度、「見附市新エネルギー・省エネルギービジョン」を策定しました。このビジョンは4つの基本方針と7つの重点プロジェクトで構成されており、廃棄・未活用資源のエネルギー転換や、地域経済の活性化、将来世代へ省エネ・新エネルギー活用などを示すことなどを通して、見附市のエネルギー転換を段階的・持続的に進めることを目的としています。

今回の調査事業は、市が進めている「ビジョン策定→調査・研究→技術開発→ハード整備」の流れの「調査・研究」に該当します。同ビジョンの基本方針として掲げる「安心・安全なまちづくりへの活用 災害に強い公共施設整備」の実現に向け、プロジェクトの「災害に強い公共施設整備プロジェクト」「安心・安全・エコなまちづくりプロジェクト」に着目し、各プロジェクトの実現に向けて、調査を行うものです。